

## ☆ 地震に備える講習に参加しましょう ☆

### (1) ロープの結び方講習会 & 非常食の食事会 (コミセンで)

- ◆ 11月4日(日)午前9時45分までに集まって下さい
- ▽ ロープの結び方を勉強したあと、食事会
- ▽ 食事は、参加者が自宅で調理した非常食を持ち寄っていただく
- ▼ 参加者は、先着30名ほど。申し込みはコミセン (777-3738) まで

### (2) 地震発生時のビデオ鑑賞会 (コミセンで)

- ① 平和が丘一・二丁目と八前三丁目のみなさま = 12月2日 (日)
  - ② 平和が丘三・四・五丁目のみなさま = 12月9日 (日)
- ※ いずれも、午前9時45分までに集まってください  
※ ビデオを観たあと、地震への備えについて話し合います

## ☆ 非常用簡易トイレを常備しましょう ☆

◇ 簡易トイレは、ひとり一回かぎりの使用です ◆ 一枚 120 ~ 130 円

※ 後日、回覧で購入希望を募集します

## 『緊急地震速報』が、きょう10月1日から運用されます

### まずは テレビ・ラジオ で放送されます

この速報は、気象庁が出します。地震の初期の微動を、震源に近い地震計でとらえ、その後に来る大きな揺れを予測します。その予測が「震度5弱以上」の場合、「震度4以上」と推定される地域名(全国を約200地域に分割)を「速報」として発表し、これをテレビやラジオが放送します。

ただし、テレビやラジオにスイッチが入っていないければ、放送を視聴することはできません。近い将来、家庭用の専用端末や携帯電話でも受信できるようになります。

この緊急地震速報は、すでに公共性の高い輸送機関や病院などに利用されており、7月16日の新潟中越沖地震のときには、こんなことがありました。

首都圏を走っていたある私鉄では、この速報が各列車に送られ、一斉に停車しました。

また、東京都立川市の国立病院では、大きな揺れが来る52秒前に速報が入り、手術室のドアが自動的に開き、手術室の中に閉じ込められることを防ぐ機能が働きました。

私たち普通の家庭でもこの「速報」を視聴できれば、より早く身の安全をまもることができるはずです。例えば、自宅に居てテレビかラジオで速報を聞くことができれば、すぐにテーブルの下に身を隠すことや座布団で頭を保護することもできます。ガスの元栓を締めたり、電気のブレーカーを落とす(これらは出火を防ぎます)こともできるでしょう。

NHKは、テレビではアナログ・デジタルの両方で総合・教育・衛星第一・同第二の8波、それにデジタルハイビジョン、さらにワンセグを加えた計10波で放送。ラジオでは第一・第二・FMの3波で放送します。

また名古屋の民間放送局では、テレビの5局は放送します。ラジオの4局では「検討中」というところもあります。

・・・名古屋地方気象台・NHK・民放各社からいただいた情報

朝日新聞8月8日付け「もっと 知りたい」の記事

を利用させていただきました。

## もろかった木造住宅 耐震不足住宅 東海にも多数

中越沖地震の死者9人は全員70～80歳代。うち8人が建物の倒壊が原因で命を落とした。

政府は阪神大震災を機に、1981年(昭和56年)の建築基準法で定められた今の耐震基準を満たしていない建物の補強を進める耐震改修促進法を施行。さらに2004年(平成16年)の新潟県中越地震を受け同法を改正して昨年施行し、耐震化率を2015年には90%へ引き上げるとした。

◇ ◆ ◇ ◆

東海3県でも、1981年の建築基準法改正前に着工され、「耐震性がない」と見られる住宅は多い。

愛知県によると、こうした住宅は、県内の住宅総数253万6800戸(03年推計)の約22%にあたる約56万戸。このうち約47万戸が戸建ての木造だ。県は02(平成14)年度から木造住宅を優先して無料の耐震診断を始め、これまでに国と県、市町村の補助制度を使って4362戸が改修を終えたが、耐震診断してない住宅は約40万戸も残っている。

(朝日新聞 7月18日付け朝刊から)

## 平和が丘コミュニティセンター 所蔵の地震関係の本

### (1)「神戸発 阪神大震災以後」 酒井道雄編 (岩波新書)

初版は震災後ほぼ半年の平成7年6月。病院、老人ホーム、学校、テント村、在日外国人は?10人の執筆者が新たな「生活づくり」「まちづくり」を模索、提示する。

### (2)「阪神・淡路大震災10年 —新しい市民社会のために—」 柳田邦男編 (岩波新書)

多くの災害弱者を犠牲にした理由を、新潟県中越地震等を含めて検証している。

### (3)「関東大震災 —消防・医療・ボランティアから検証する」 鈴木淳著 (ちくま新書)

初版は平成16年12月。10万人を超える犠牲者の多くは焼死者。消防は誰が担ったのか、医療関係者の手は十分に届いたのか…大震災の教訓を詳細に追っている。

### (4)『「震度7」を生きる』 初版は平成17年3月。右の欄を参照。

### (5)「日本の地震災害」 藤和明著(岩波新書) 筆者は防災情報機構会長。初版は平成17年10月。関東大震災以降の大地震を読み物風に解説している。

## 「防災タイムズ」の発刊に寄せて

平和が丘学区連絡協議会  
会長 佐藤健雄

12年あまり前の阪神・淡路大震災、3年前の新潟県中越、今年の中越沖、能登半島地震。台風による災害もありました。私たちは、災害による人的被害を最小限に食い止めなくてはなりません。

そのために学区連絡協議会では対策会議を設け、防災名簿の作成、防災倉庫の設置、訓練などを重ねてきました。

地域社会の防災力は、日頃の住民同士の触れ合い、信頼にあります。

「タイムズ」が、こうした住民の「つながりあい」を強めること、防災対策に役立つことを、心から期待します。

## そのとき…

### 貴重品はひとまとめに

新潟県柏崎市でひとり暮らしの80歳の男性。三年前の中越地震の経験から、預金通帳や健康保険証などの貴重品はひとまとめに包み、一階の持ち出しやすいところにしまっておいた。

おかげで今回の中越沖地震では、とっさにこの包みを持ち出すことができ、「助かった」と大喜び。

(朝日新聞 7月17日夕刊から)

### ボールが役立った!!

やはり柏崎市東本町で。71歳の男性。妻と二人。座布団をかぶって震えていた。「助けて!」という悲鳴を聞いて外に飛び出すと、見慣れた向かいの二軒が倒壊していた。一軒は、二階建ての一階部分がペチャンコ。

知らせを聞いた近所の男性ら数人が駆け付け、二階部分の窓ガラスをボールで破り、飛び込んだ。中には70歳前後の男性が。つぶれた一階部分で、奇跡的にできたすき間に横たわっていた。飛び込んだ人たちが抱きかかえて運び出した。「よかったー」の歓声。

(中日新聞 7月17日朝刊から)

### 包丁が飛んできた! など

…祥伝社新書  
『「震度7」を生きる—被災地医師が得た教訓』  
(田村康二 著)から

台所にいたわたくしに、キッチン台の上においてあった包丁が真正面から飛んできたのです。大揺れの中、夢中で身をかわしました。

その包丁は、床に深く食い込んで止まったんです。思い出すだけで身体が震えます。

たんすが倒れたんじゃないやありません。そのまま本当に飛んできたんです。あれがまともに当たっていれば、いまごろの世でしょう。防震用の留め金では留め切れませんでした。

突然の大揺れで親が「机の下にかくれる!」と言うのを聞いて机の下に入り、机の脚にしがみついていた。けどその脚が一息に30センチも動いたんです。怖かったけど泣いちゃいけないと思い、懸命に涙をこらえました。しかし、あのときを思い出すと涙が自然に出て止まりません。

わたくしは宅配便の運転手で、埼玉県の熊谷市付近を長岡方面に走っていました。突然に強い揺れを感じました。それからが渋滞に巻き込まれて大変でした。お客様の荷を預かっていて、長岡までの道を探し出すのに苦労しました。

ベビーベッドに寝ていたわが子をなんとか、と思ったのですが、床が大揺れしてとても近づけませんでした。そこで、這っていったのです。よかった! 坊やは無事でした。

倒れた箆(たんす)に挟まれて動けなくなってしまいました。しかし、助けを呼ばなかった。あとで、呼び笛を持っていればよかったと教えられました。